

1 水産総合研究所の沿革と組織

(1) 位 置

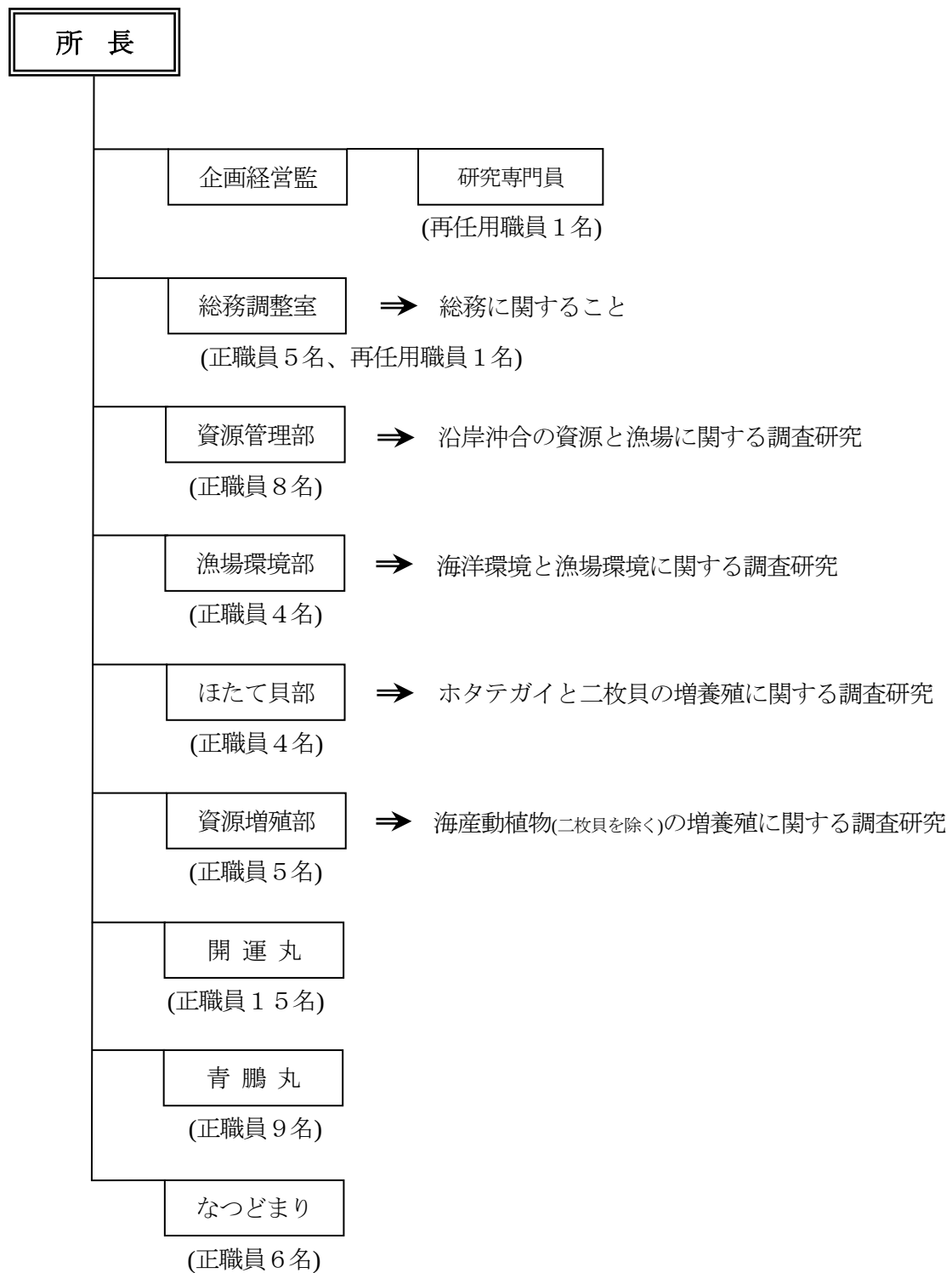
東津軽郡平内町大字茂浦字月泊10

(〒039-3381 TEL 017-755-2155 FAX 017-755-2156)

(2) 沿 革

明治33年2月	青森県水産試験場設置認可（農商務大臣）
明治33年4月	青森市大字大野字長島青森県庁構内に設置し事務開始
明治34年	相坂鮭鱒人工ふ化場を上北郡藤坂村に設置
大正13年	本場を八戸市湊町に移転
昭和23年	黒石養魚場を南津軽郡中郷村に設置
昭和23年	本場を西津軽郡鰺ヶ沢町に移転、庁舎新築
昭和24年	陸奥湾分場をむつ市に設置
昭和25年	黒石養魚場を黒石市大字石名坂に移転
昭和27年	陸奥湾分場が陸奥湾水産増殖研究所と改称され独立機関となる
昭和43年	水産増殖研究所を平内町茂浦に移転し、水産増殖センターと改称する
昭和51年3月	鰺ヶ沢町大和田に水産試験場新庁舎を竣工
昭和56年4月	十和田市に青森県内水面水産試験場を設置する（相坂、黒石両養魚場及び内水面関係業務を移管）
昭和58年2月	青森県水産試験場漁業研修センター竣工
平成5年	水産増殖センター新庁舎竣工
平成12年4月	水産試験場創立100年
平成13年3月	八戸市ポートアイランドに漁具倉庫新築
平成15年4月	試験研究機関の統合により青森県水産総合研究センターと改称され、下部機関として増養殖研究所、内水面研究所が配置となる
平成18年4月	水産総合研究センター庁舎を鰺ヶ沢町舞戸町に移転
平成21年4月	青森県水産総合研究センターと増養殖研究所を統合し、地方独立行政法人青森県産業技術センター水産総合研究所となり、庁舎を平内町へ移転

(3) 機 構 (2022 年度)



事務所：30名
試験船：30名
計：60名

(4) 施 設

① 土 地	20,971.30m ²		
② 建 物	5,461.74m ²		
・管理研究棟	鉄筋コンクリート造	1部2階建	1,735m ²
・実験機械棟	鉄骨造	平屋建	1,122m ²
・飼育実験棟	〃	〃	1,563m ²
・研修宿泊棟	木 造	2階建	271m ²
・作業 棟	〃	平屋建	324m ²
・取水ろ過棟	鉄筋コンクリート造		103m ²
・倉 庫 棟	木 造	平屋建	108m ²
・発電機棟	鉄筋コンクリート造	〃	59m ²
・車 庫 棟	鉄骨造	〃	74m ²
・油 庫 棟	〃	〃	8m ²
・そ の 他			95m ²
③ 主 な 施 設			
・海水取水ポンプ	7.5KW	3台	
・逆洗ポンプ	18.5KW	1台	
・ろ過槽（重力式）	80トン／時	3基	
・ろ過水貯水槽	120トン	1基	
・ろ過貯水タンク	9トン	1基	
・屋外コンクリート水槽	12トン：6面、10トン：8面		
・親魚棟コンクリート水槽	30トン：1面、20トン：1面、10トン：4面		
・屋内FRP水槽	30トン：2面、10トン：2面、5トン：3面		
・ブ ロ ヱ ー	3.7KW：2台、5.5KW：1台		
・発 電 機	500KVA	1台	
・海水温度制御装置（アクアトロン）	温海水 5系統 35トン／時 冷海水 4系統 6トン／時		
・海況自動観測装置（ブイロボット）	3基		
④ 試 験 船			
・開 運 丸	199トン	ディーゼル	1,176KW（鋼船）
・青 鵬 丸	65トン	ディーゼル	1,000PS（鋼船）
・な つ ど ま り	19トン	ディーゼル	610KW（軽合金）

2 職員名簿

部 署	職 名	氏 名	部 署	職 名	氏 名
	所 長 企画経営監 総括主幹研究専門員	長崎 勝康 伊藤 欣吾 野呂 恭成		船 長 機関長 通信長	笹原 一雄 佐藤 正樹 金屋 富明
総務調整室	室 長 主 事 主 事 技能技師 技能技師 技能専門員	長谷川 清 上野美紀江 松村 康平 上村 健 三戸 俊和 尾鷲 政幸	開運丸	一等航海士 一等機関士 二等航海士 二等機関士 二等機関士 甲板長 甲板員 甲板員 甲板員 甲板員 機関員 司厨員	石井 達也 肴倉 厚雄 小野 昌広 榊 修悦 磯沼 純一 稲葉 白虎 佐々木 惇大 川口 翔平 寺井 舜哉 佐々木斗吾 大坂 拓巳 加藤 文二
資源管理部	部 長 研究管理員 主任研究員 主任研究員 研究員 研究員 研究員 研究員	今村 豊 和田 由香 田中 友樹 村松 里美 松谷 紀明 傳法 利行 佐藤 大介 石黒 智大		船 長 機関長 一等航海士 一等機関士 二等航海士 二等航海士 甲板員 甲板員 司厨員	若崎 忠彦 中村 義美 本堂 洋一 角田 達美 小又 総 今泉 健介 北嶋 雄大 清水 ひかる 阪崎 勝
漁場環境部	部 長 主任研究員 主任研究員 研究員	高坂 祐樹 三浦 太智 扇田 いずみ 長野 晃輔	青鵬丸		
ほたて貝部	部 長 研究管理員 主任研究員 主任研究員	山内 弘子 小谷 健二 佐藤 慶之介 遊佐 貴志		船 長 機関長 二等航海士 甲板員 甲板員 司厨員	八木橋 憲一 逢坂 健幸 小笠原 大郎 須藤 蓮登 笹原 颯真 長津 司
資源増殖部	総括研究管理員 (部長事務取扱) 主任研究員 研究員 研究員 研究員	吉田 雅範 鈴木 亮 杉浦 大介 中山 凌 高橋 拓実	なつどまり		
			事務所：30名		
			試験船：30名		
			計：60名		

3 歳出予算執行状況

単位:千円

事業種目		事業内容	決算額
法人管理運営費支出			26,008
	管理運営費支出		26,008
	法人調整費	法人全体の調整(各種委員会等)	189
	施設整備費	研究機器・設備の整備等	2,955
	物価高騰影響額	研究所の管理運営費	14,740
	建物維持修繕費	研究施設の修繕費	8,124
水産総合研究費支出			238,283
	管理費支出		132,651
	一般管理費(自己収入)	研究所の管理運営費(自己収入分)	1,145
	一般管理費(交付金)支出	研究所の管理運営費(交付金分)	29,447
	試験船警備費支出	試験船「開運丸」「青鵬丸」の巡回警備業務委託料	2,511
	運行管理費支出	試験船「開運丸」「青鵬丸」の運行管理費	28,020
	上架修理費支出	試験船「開運丸」「青鵬丸」の維持修繕費	23,755
	船舶保険料支出	試験船「開運丸」「青鵬丸」「なつどまり」及び実習船「みどり」の漁船保険料	5,247
	なつどまり運行管理費支出	試験船「なつどまり」の運行管理費	7,512
	アクアトロン施設運営費支出	アクアトロンの設備保守管理	16,315
	実習船管理費支出	実習船「みどり」の運行管理費	680
	陸奥湾海況自動観測システム管理費支出	陸奥湾海況自動観測システム運営費	11,091
	非常勤職員等経費支出	非常勤労務員の賃金等	6,928

単位:千円

事業種目	事業内容	決算額
水総研業務費支出		13,064
資源管理研究費支出		1,709
重要魚類モニタリング調査事業費支出	底魚類の資源評価のための基本情報のモニタリング	546
マダイの資源管理手法と高鮮度処理技術の開発事業費支出	マダイの効率的な年齢構成を推定する技術の開発と鮮度処理の実態を解明	963
寄生虫を指標としたサバ類の新たな系群判別手法の開発事業費支出	アニサキスをタグとしたサバ類の系群判別手法を開発する	200
漁場環境研究費支出		913
イカ類漁海況情報収集・提供事業費支出	スルメイカの漁期前調査及び漁期中の回遊状況等の情報提供	288
陸奥湾海況情報提供事業費支出	海況情報データ提供及び情報交換	303
スルメイカの漁況予測に関する調査研究事業費支出	効率的なスルメイカ操業を行うために必要な漁況予測手法の開発	322
ほたて貝研究費支出		1,628
ホタテガイ増養殖安定化推進事業費支出	天然採苗予報調査、増養殖実態調査	1,057
ICTを利用したホタテガイ養殖作業の効率化技術の開発事業費支出	へい死軽減と成長促進が図れる養殖工程を判断できるアプリケーションを開発	380
動体検知撮影によるホタテガイ籠内挙動モニタリング事業費支出	養殖籠内のホタテガイ挙動をモニタリングする	191
資源増殖研究費支出		562
マツカワの養殖種苗生産技術開発事業費支出	量産技術及び効率的な養殖技術を開発	562
研究費交付金事業費支出		8,252
資源管理に必要な情報提供事業費支出	日本海、太平洋、津軽海峡の海況情報提供	675
ホタテガイ成貝づくりによる生産体制強化事業費支出	ホタテガイ成貝づくりの推進のため、適正な成貝養殖方法の検討と付着生物ラーバの出現動向の把握、対策の検討	3,632
新たな栽培・養殖魚種の増養殖体制構築事業費支出	アイナメの成長などの生態調査	1,939
海面養殖業高度化事業費支出	ホタテガイのへい死原因解明	800
日本海で育む磯根資源利用促進事業費支出	ドローを使った海藻資源調査	618
放流効果調査事業費	栽培漁業推進のための放流技術開発試験	588

単位:千円

事業種目	事業内容	決算額
水総研受託研究費支出		86,741
水総研受託研究費支出		86,741
藻場造成効果調査委託事業費支出	水産基盤整備事業により整備した漁場の効果調査	24,277
資源評価調査委託事業費支出	本県周辺海域での利用可能な魚種の資源量を評価するための関係資料整備	28,052
資源管理基礎調査委託事業費支出	県資源管理指針等に基づき、適切な資源管理推進のための調査	6,212
国際漁業資源評価調査(まぐろ・さめ)委託事業費支出	国連海洋法条約に基づき、マグロ・サメ類の科学的データを完備するための調査	778
あかいか資源調査事業費支出	太平洋沖合のアカイカ資源の動向及び漁場形成要因解析のための調査	24,058
大型クラゲ出現調査及び情報提供委託事業費支出	大型クラゲ出現情報及び情報提供	1,172
車力マコガレイ種苗作出試験事業費支出	種苗放流のためのマコガレイ種苗生産試験	385
野辺地マコガレイ種苗作出試験事業費支出	種苗放流のためのマコガレイ種苗生産試験	385
小泊ウスメバル放流種苗作出試験事業費支出	種苗放流のためのウスメバル種苗生産試験	200
下前ウスメバル放流種苗作出試験事業費支出	種苗放流のためのウスメバル種苗生産試験	200
定置網クロマグロ漁獲コントロール技術開発事業費支出	定置網に入網したクロマグロを効率的にコントロールする技術開発	822
三厩ウスメバル放流種苗作出試験事業費支出	種苗放流のためのウスメバル種苗生産試験	200
水総研受託事業費支出		5,827
水総研受託事業費支出		5,827
新規漁業就業者対策事業費支出	漁業の基礎知識、技術を身につけるための賓陽塾の運営	1,174
漁業公害調査指導事業費支出	陸奥湾の漁場環境保全のための監視調査	354
温排水モニタリング調査事業費支出	東通原子力発電所の温排水による影響調査	764
EU向け輸出ほたて安全対策事業費支出	対EUホタテガイ生産海域における毒素産出性プランクトン調査	761
貝毒プランクトンモニタリング調査事業費支出	国内向け二枚貝の貝毒及び貝毒原因プランクトンのモニタリング	2,565
漁船活用型資源情報収集等支援事業費支出	漁獲量データの収集及び情報提供	209

※職員人件費については産業技術センター本部予算で一括計上

※他の研究所から配分替えを受けて執行した事業費を含む

※配分替えにより他の研究所で執行した事業費を除く

4 調査、研究報告及び資料・情報等の発行（2022 年）

（１）公刊した報告書等

報 告 書 名	発行年月	備 考
2021 年度青森県産業技術センター水産総合研究所事業報告	2023 年 8 月	発行は 2023 年度
2022 年度青森県産業技術センター水産部門事業概要年報	2023 年 7 月	発行は 2023 年度

（２）提供情報

情 報 名	期間及び回数
ウオダス漁海況速報 No. 2126～2161	2022 年 4 月～2023 年 3 月 (36 回)
陸奥湾海況情報 No. 1387～1438	2022 年 4 月～2023 年 3 月 (52 回)
ホタテガイ採苗速報 No. 735～752	2022 年 4 月～2023 年 3 月 (8 回)
ホタテガイ養殖管理情報 No. 206～212	2022 年 4 月～2023 年 2 月 (7 回)
付着生物（ユウレイボヤ等）ラーバ情報 No. 113～126	2022 年 8 月～2023 年 3 月 (14 回)
貝毒発生状況等速報	2022 年 4 月～2023 年 3 月 (31 回)
陸奥湾の水温（東奥日報紙）	2022 年 4 月～2023 年 3 月（毎日）
陸奥湾湾口周辺海域のイカナゴ稚仔分布調査結果について	2022 年 4 月 (1 回)
陸奥湾湾口海域のイカナゴ幼魚（コウナゴ）分布調査結果について	2022 年 6 月 (1 回)
陸奥湾マダラ稚魚分布調査結果について	2022 年 7 月 (1 回)
青森県日本海沖合のハタハタ分布調査結果	2022 年 9 月 (1 回)
ヒラメ稚魚着底量調査結果（日本海、太平洋）	2022 年 9 月 (1 回)
イカナゴ類夏眠場調査について	2022 年 10 月 (1 回)
2022 年漁期のハタハタ見通し	2022 年 12 月 (1 回)
陸奥湾のマダラ漁獲状況について	2023 年 2 月 (1 回)
陸奥湾湾口周辺海域のイカナゴ稚仔分布調査結果について	2022 年 3 月 (1 回)

（３）青森県水産研究情報 水と漁

発行番号	発行年月
第 40 号	2022 年 7 月
第 41 号	2022 年 12 月
第 42 号	2023 年 3 月

(4) 発表論文等

①学会等での発表

- 1) 高松敦, 野呂英樹, 内田圭一, 秋山清二, 伊藤欣吾, 田中友樹, 宮本佳則. 超音波テレメトリーによる定置網箱網の形状モニタリング 1 ー箱網容積の計測手法の構築についてー. 2022 年度日本水産工学会学術講演会, (2022. 6)
- 2) 野呂英樹, 内田圭一, 秋山清二, 宮本佳則, 東海正, 伊藤欣吾, 田中友樹. 超音波テレメトリーによる定置網箱網の形状モニタリング 2 ー青森県西津軽郡深浦町の大形定置網における潮流と箱網容積についてー. 2022 年度日本水産工学会学術講演会, (2022. 6)
- 3) 安岡法子・中山凌・辻村浩隆: 大阪湾におけるマガキの天然採苗の試み. 2022 年日本プランクトン学会・日本ベントス学会合同大会 (2022. 9)
- 4) 杉浦大介: 青森県沿岸岩礁域における藻場とウニ・アワビ類の状況について. 令和 4 年度日本水産学会東北支部大会ミニシンポジウム「東北地方における磯根資源の変動と現状 ー近年の高水温傾向を中心としてー」, (2022. 10) .
- 5) 石黒智大, 成松庸二, 森 友彦, 後藤友明: 三陸海域におけるチゴダラの成長式および漁獲物組成. 令和 4 年度日本水産学会東北支部大会, (2022. 10) .
- 6) 中山凌: 青森県竜飛崎で確認された潮間帯性軟体動物. 2022 年日本貝類学会大会 (2022. 11)
- 7) 石黒智大: 三陸海域におけるチゴダラ (旧名: エゾイソアイナメ) の成長様式および漁獲物の年齢構成. 令和 4 年度岩手県三陸海域研究論文, (2022. 12) .
- 8) 野呂恭成: ミズダコの性成熟, 生殖と成長. 令和 5 年度日本水産学会春季大会、水産増殖懇話会講演「タコ類の増養殖の現状と問題点」, (2023. 3) .

②その他の投稿

- 1) Harutaka Hata, Kenji Odani, Masanori Nakae: Northernmost record of the snake-eel *Ophichthus zophistius* (Teleostei: Anguilliformes: Ophichthidae) from Mutsu Bay, Aomori Prefecture, northern Japan. Biogeography, 24, 98-101, (2022. 9).
- 2) 澤井悦郎, 石黒智大: 北海道 3 例目および青森県初記録のウシマンボウ. Ichthy, Natural History of Fishes of Japan, 25, 27-33, (2022. 10).
- 3) 石黒智大, 森 友彦, 後藤友明: 東北太平洋産エゾイソアイナメの成長と Age-Length key. 東北底魚研究, 42, 1-9, (2022. 12).
- 4) 松谷紀明, 三浦太智: 陸奥湾におけるマダラ稚魚分布密度と資源量. 東北底魚研究, 42, 10-12, (2022. 12).
- 5) 高坂祐樹, 扇田いずみ, 長野晃輔: 青森県陸奥湾における水温予測システムについて. 東北ブロック水産海洋連絡会報, 53, 6-7, (2023. 3).